



# 「水」の恩恵と脅威 先達の 大いなる功績

小田原市には、水をめぐる生業と文化が脈々と受け継がれてきました。  
それは、まちの歴史を紡ぎ、未来をつくる大切な財産です。

## 森と海はつながっている 樹々が育む豊饒の海

市の中央を流れる酒匂川は、富士山と丹沢山地を主流流とし、相模湾に注ぎ込んでいます。豊かな水量と、プランクトンを多く含んだ水質が特徴となっています。量・質ともに優れた河川水の恩恵

を受ける相模湾は、日本三大深湾のひとつであり、栄養豊富な深層水や黒潮の影響を受けています。自然の摂理によって成立する好条件のもと、約1,600種もの魚介が生息する世界が形成されています。森と海をつなぐ「水」は、小田原の恵まれた環境の源となっています。

### ▶水道使用量

1日1人あたりの使用水量

296ℓ

【平成30年版小田原市ミニ統計】



小田原用水は  
日本最古  
の上水道

北条氏康(1515-1571)の  
頃につくられたと  
いわれています。

### 二宮尊徳

封建社会の中で農民らを救う道として独特の「報徳仕法」を生み出した二宮尊徳。度重なる酒匂川の洪水と相次ぐ父母の死により離散した家を再興し、小田原藩、幕府・日光神領の立て直しに奔走しました。



## 水の恵みと治水の歴史 先人たちの戦いに学ぶ

酒匂川の水は、古くから飲料水や農業用水等に利用され、人びとの暮らしを支えてきました。小田原の伝統・文化もまた、海や川の恵みの中で紡がれてきました。そのような水の恩恵を享受してきた一方で、扇状地河川の宿命ともいべき氾らん・水害の歴史も併せ持っています。江戸時代から初期の大口堤をはじめ、宝永大噴火後の文命堤、1978(昭和53)年完成の三保ダムなど、先人たちが時代を超えて取り組んできた治水事業により、現在の緑豊かな足柄平野が守り継がれてきました。小田原のまちづくりの歴史は、治水とともにあったといっても過言ではありません。



### 小田原用水

箱根の芦ノ湖を源とする早川の水を板橋の取水口から取り入れ、城下へ流した日本最古の上水道です。

## 今も、未来も続く 人の営みと水の関係

豊潤な小田原の水資源は、水を必要とする製造業や研究機関にとって価値あるものです。酒匂川沿いには多くの企業が操業しています。また、海や川は人びとに癒やしと安らぎをもたらす、イベントやアクティビティなど楽しみを生み出す場所としても機能しています。人の営みに欠かせない水の恵みは、未来へつなげるべき大切な財産となっています。

### 酒匂川花火大会

毎年市内外から多くの観客を集めている酒匂川花火大会。小田原の夏の風物詩として親しまれています。



### 工業団地

市内各地区の地の利と水の利を生かし、西湘テクノパーク(羽根尾地区)、テクノランド小田原(成田・桑原地区)等の工業団地が整備されています。



### 水田

足柄平野の水田は、酒匂川の水害や富士山の噴火など、幾多の困難を乗り越え、守り継がれてきました。

